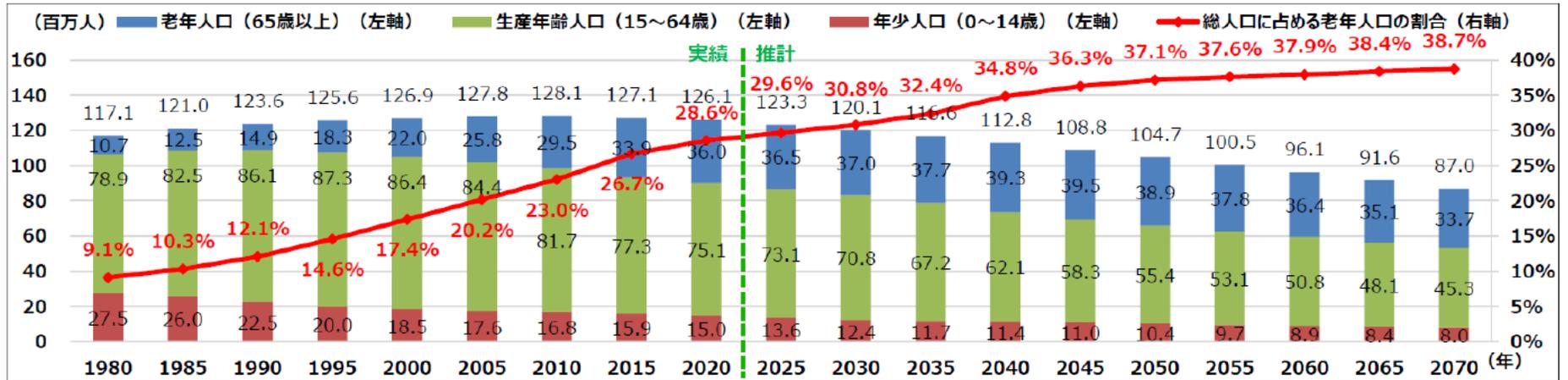
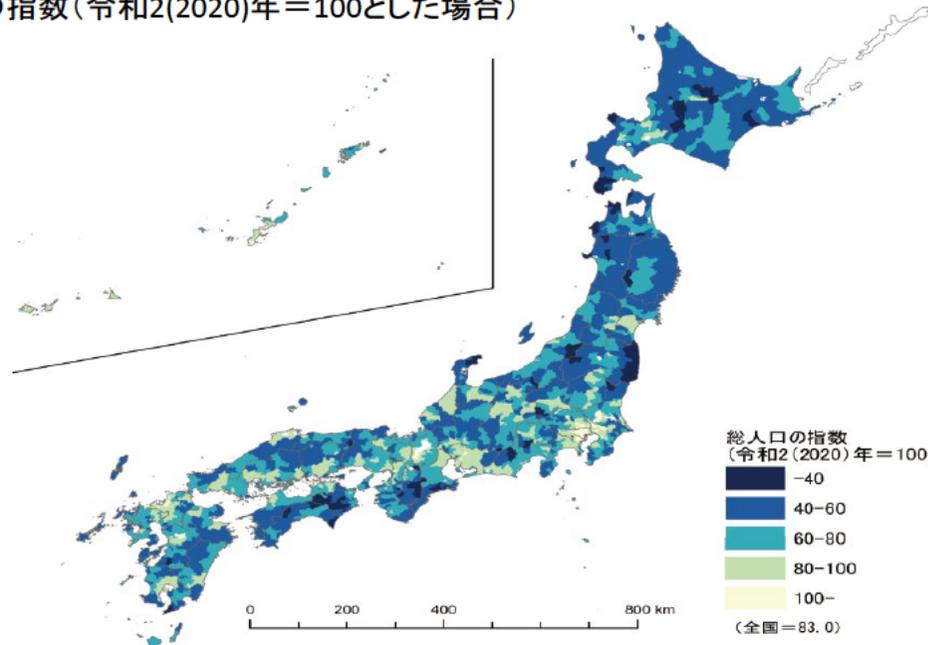


(参考)人口の推移



資料: 2015年までは総務省「国勢調査」(年齢不詳の人口を各歳別にあん分した人口)、2020年は総務省「国勢調査」(不詳補完値)、2023年は総務省「人口推計(令和5年10月1日現在)」、それ以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」を基に作成。

令和32(2050)年の総人口の指数(令和2(2020)年=100とした場合)



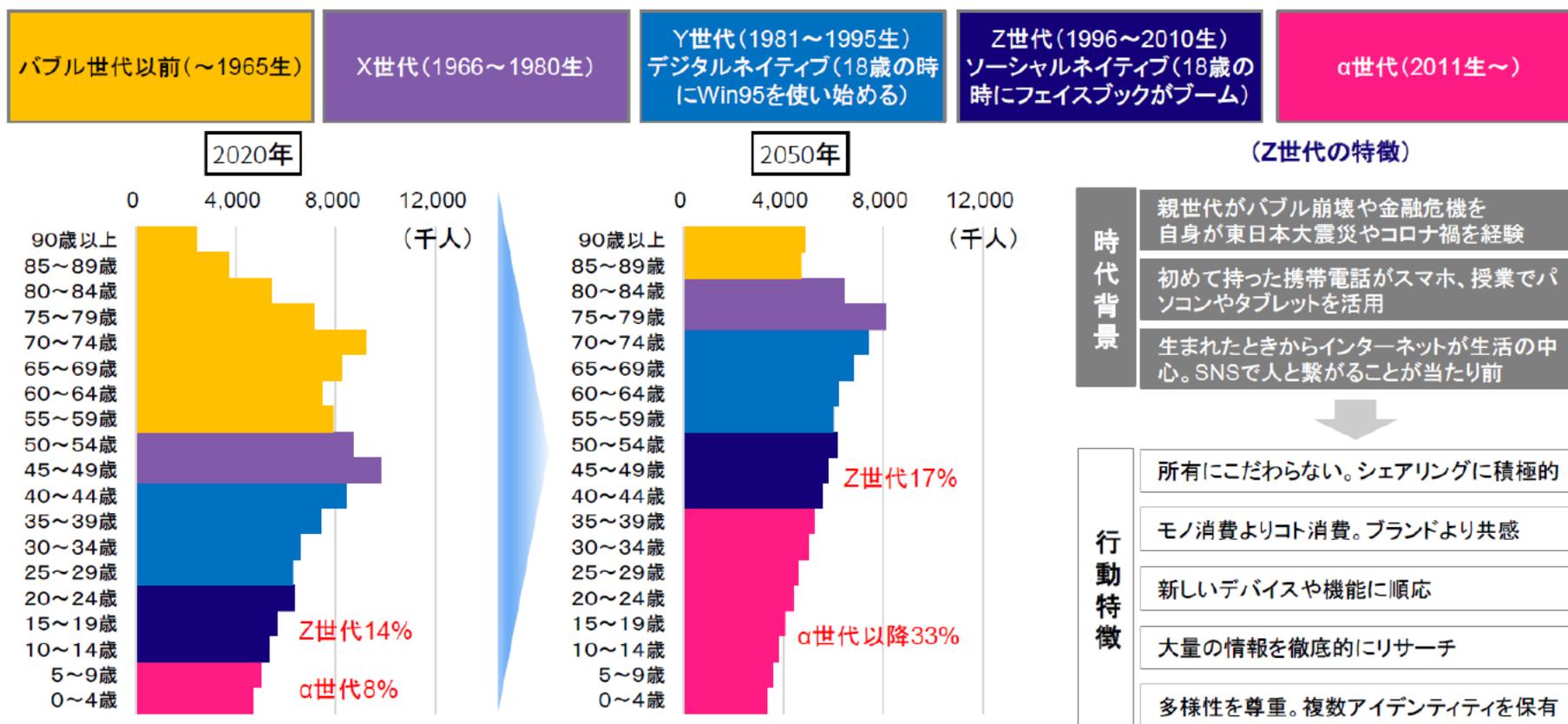
(出典)内閣官房・内閣府「地方創生10年の取組と今後の推進方向参考資料集」
https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/chisoudecade/pdf/siryou3-3_part1.pdf
 (2026/02/13参照)

(出典)国立社会保障・人口問題研究所報告書「日本の地域別将来推計人口-令和2(2020)~32(2050)年-(令和5年推計)」
<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/6houkoku/houkoku.asp> (2026/02/13参照)

2050年にはデジタル&ソーシャルネイティブな世代が総人口の5割に

- テクノロジーの浸透には社会的受容も必要となるが、デジタルに関しては生まれながらにしてデジタルネイティブであるZ世代以降が、2050年時点では人口の半分以上を占めることに。全世代でデジタルに高い親和性を持ち、デジタル化は急加速

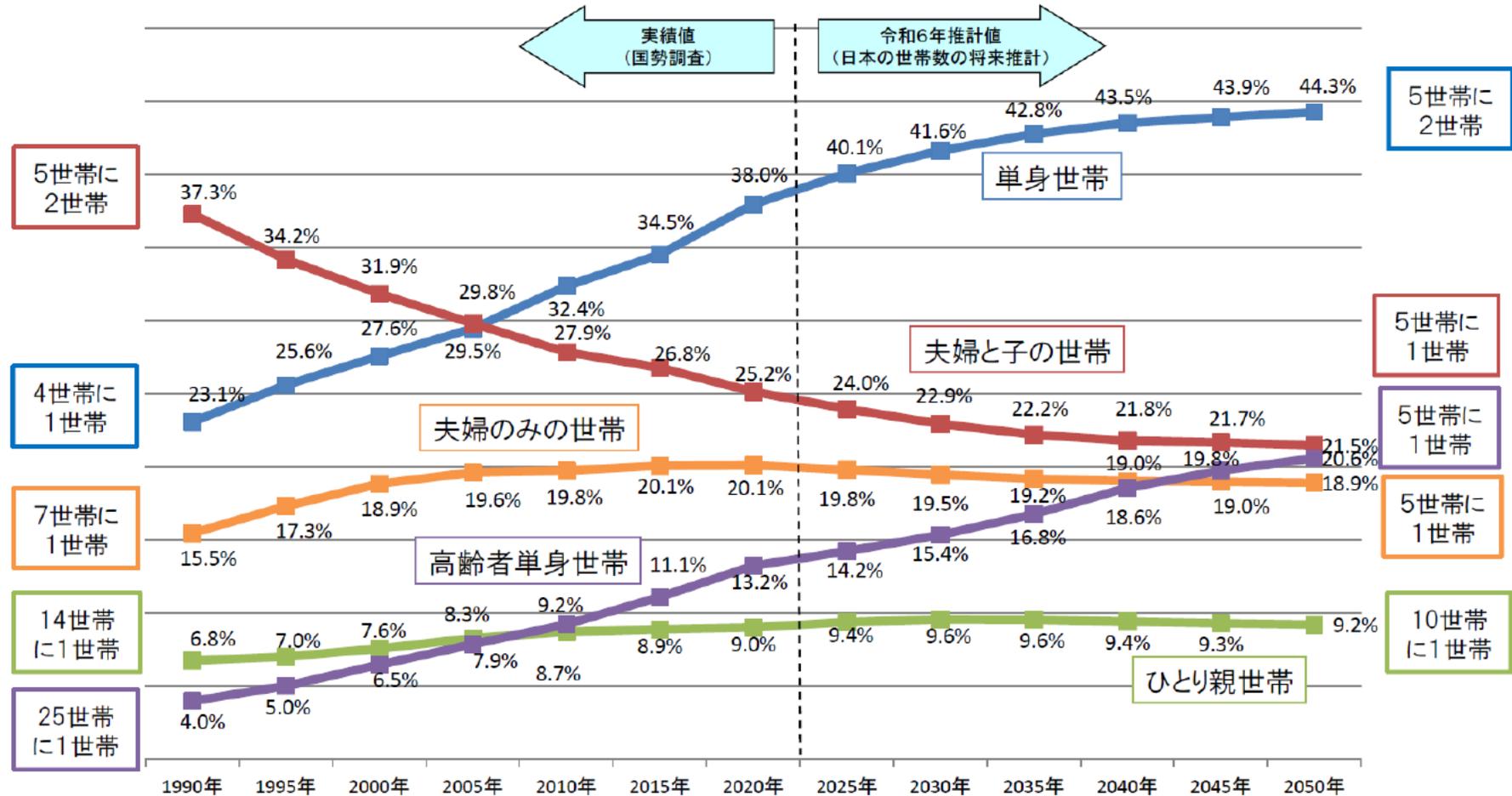
日本の年代別人口構成の変化：2020年⇒2050年



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」より、みずほ銀行産業調査部作成

(参考)一般世帯における世帯構成の推移と見通し

○単身世帯、高齢者単身世帯(※1)ともに、今後とも増加が予想されている。
 単身世帯は、2050年で44.3%に達する見込み。(全世帯数約5,570万世帯(2020年))



(出典) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」「令和6(2024)年推計。なお、2020年の数値は、総務省「令和2年国勢調査に関する不詳補充結果(参考表)」に基づき、家族類型不詳、年齢不詳をあん分したもの。

(※1) 世帯主が65歳以上の単身世帯を、高齢者単身世帯とする。

(※2) 全世帯数に対する高齢者単身世帯の割合はグラフのとおりだが、世帯主年齢65歳以上世帯に対する割合は、35.2%(2020年)から45.1%(2050年)へと上昇。

(※3) 子については、年齢にかかわらず、世帯主との続柄が「子」である者を指す。

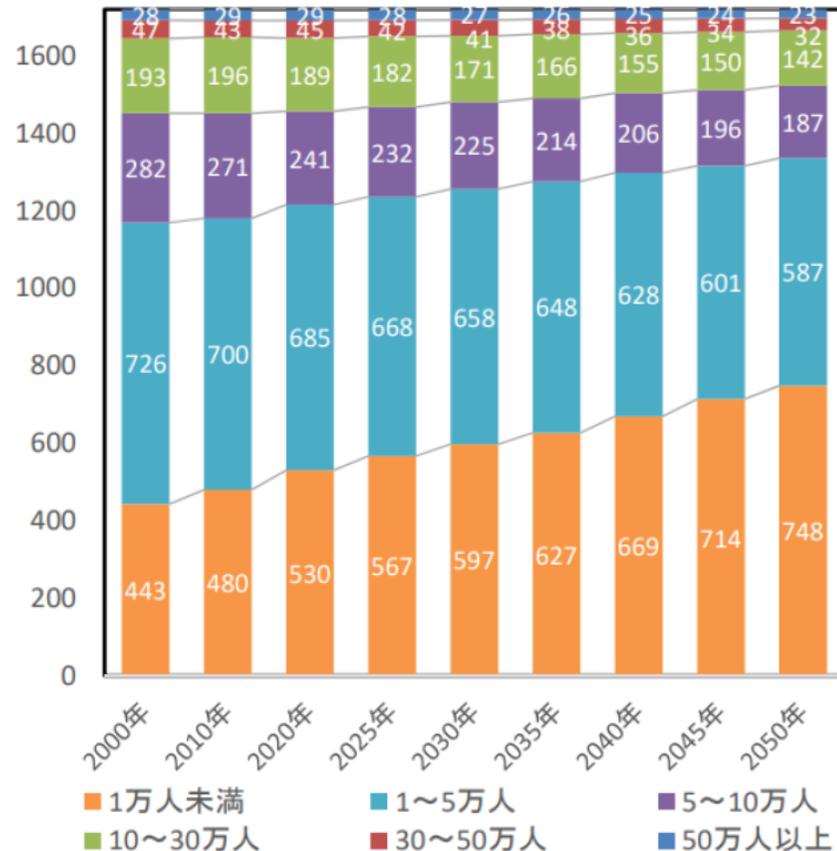
(出典) 厚生労働省「我が国の人口について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21481.html (2026/02/13参照)

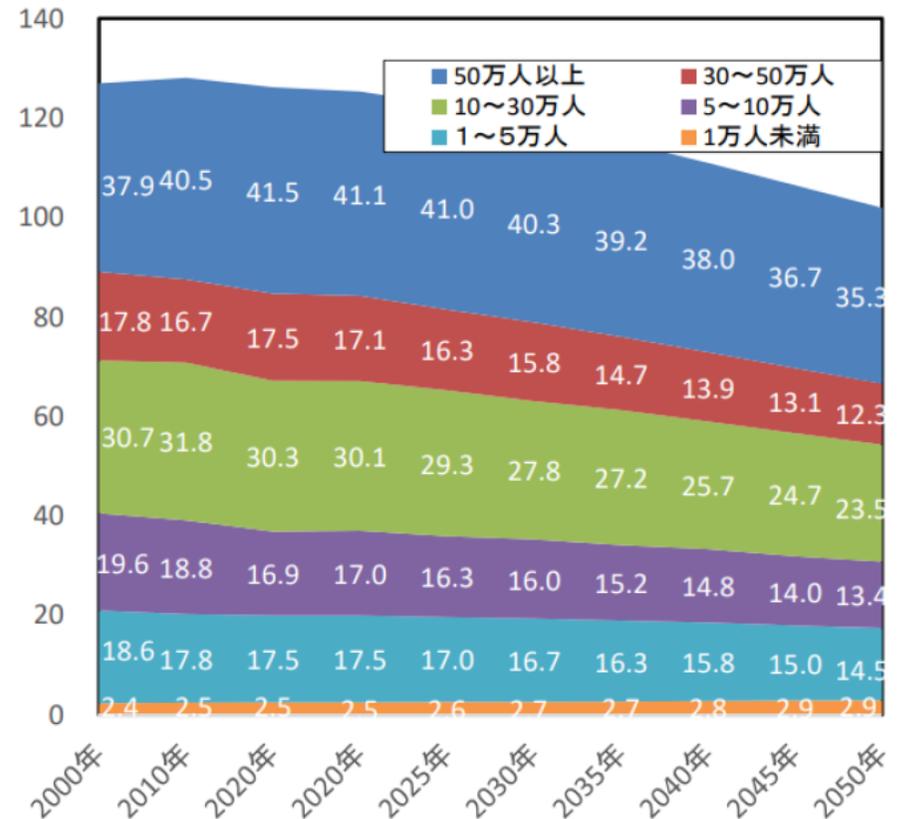
(参考)市区町村人口規模別(各地点)の自治体数・人口の推移

○自治体数で見ると、1万人未満の自治体が増加し、他の人口規模の自治体はおおむね減少する見込み。
 ○各時点の市区町村の人口規模ごとの人口合計数では、1万人未満規模の人口合計数は増加するものの、その割合は小さく、総人口に占める割合が大きいその他の人口規模では総じて減少する見込み。

自治体数の推移



(100万人) 対2000年人口の推移(各時点の人口規模別)



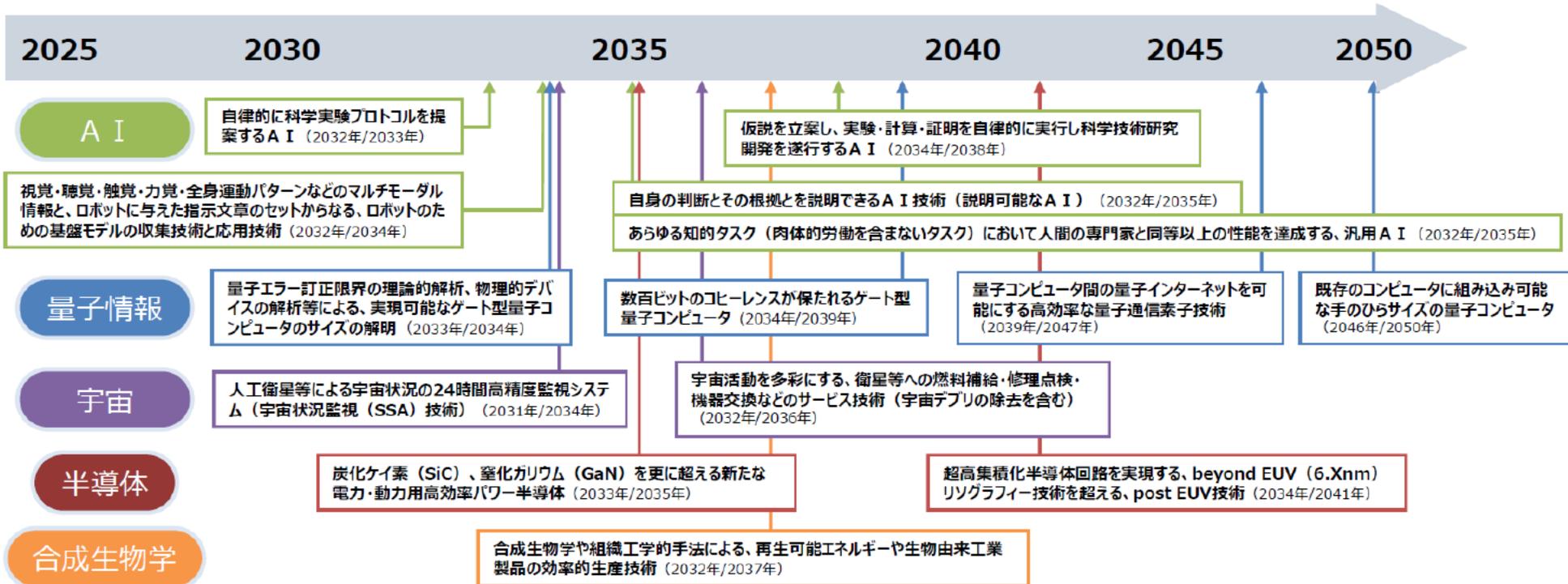
(出典) 1. 国土交通省「メッシュ別将来人口推計(H30推計)」、総務省「国勢調査」より作成。2020年までは国勢調査、2025年以降が推計値。
 2. 自治体数に東京特別区は1つとして含み、合計は1719。那珂川市は2018年に町から移行したが、同じ自治体として扱う。

(出典) 国土交通省「国土形成計画(全国計画)関連データ集」

- 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) は、産学官の専門家を対象として836に亘る科学技術、社会課題の重要度、実現時期などをデルファイ法により調査。
※デルファイ法：集計結果を提示した上で同一回答者に同一質問を繰り返して再考を求めることにより、集団の意見収れんを促す手法。
- 2030年代には、**専門家と同等以上の性能を達成する汎用A I、ゲート型量子コンピューターなど、A I、量子、宇宙、半導体、合成生物学といった領域**で社会・経済構造に大きな影響を与え得る各種技術の解明、普及が起きる可能性を示唆。

実現年表 * 括弧内は実現時期。(科学技術的实现時期/社会的实现時期) で表記。

* 科学技術的实现時期：日本を含む世界のどこかで、研究室段階で技術開発の見通しがつく時期、所期の性能を得るなど技術的な環境が整う時期、原理等の解明時期など。
* 社会的实现時期：日本の国内で製品やサービス等として普及する時期や、施設や設備として利用可能になる時期、制度・システムの確立の時期など。



出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) 「第12回科学技術予測調査 科学技術等の中長期的な将来予測に関するアンケート調査 (デルファイ調査)」を基に作成

(出典)内閣府「重要技術領域検討ワーキンググループ取りまとめ概要」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon7/10kai/shiryu3.pdf> (2026/02/13参照)

- 文部科学省 科学技術・学術政策研究所は、「第12回科学技術予測調査 デルファイ調査（2024年）」にて、専門家4,700人以上へのアンケート調査を通して、800以上の科学技術等の普及時期を分析。

未来技術の実現時期の予測例

社会的 実現時期	科学的 実現時期	主な内容
2029年	2029年 29年	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルメディアなどの情報の信憑性・信頼性を分析し、フェイクニュースの拡散を防止する技術 ・ 災害発生時における需要に合わせた物資供給システム
31年	29年 31年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産現場における農林水産物の品質のリアルタイム非破壊定量分析システム ・ アレルゲン計測技術に基づいた、アレルギーを起こさない食品の製造技術
32年	29年 29年	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIによる重傷者搬送調整システム ・ 下水分析による感染症等の疾患モニタリング技術
33年	30年 30年	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロボット技術とICT技術を用いた完全養殖施設 ・ 熱波、豪雨など実際の異常気象に対し、長期的気候変化の寄与を速やかに同定するシステム
36年	30年 31年	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほぼ100%キャッシュレスに実現できる、セキュアで効率的、かつ安心感を持てる経済基盤 ・ 大豆や細胞を用いた人工食品の3Dプリンティングによる製造技術
38年	33年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移植可能な臓器を生産できる医用モデルプラ
39年	33年 34年 36年	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒト味覚受容体に結合し、自由に味を制御できる人工タンパク質 ・ 数百ビットのゲート型量子コンピュータ ・ 一般の乗客が気軽に利用できる空飛ぶクルマ
40年	33年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水素還元製鉄技術、カーボンリサイクル高炉技術などの、CO₂を排出しない次世代型高炉

社会的 実現時期	科学的 実現時期	主な内容
41年	34年 35年	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル通貨（暗号資産、中央銀行発行デジタル通貨等）の法定通貨化 ・ 光合成能力を飛躍的（1.5-2倍以上）に向上した植物による、効率的なCO₂回収技術
42年	38年 39年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的活動をサポートする脳に接続するデバイス ・ 生物種のゲノム情報データベースから全ゲノムを再構築して自由に復元できる生物種再構成技術
43年	41年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高層ビル、重長大橋梁等、大型建造物を製造する3D造形技術
44年	35年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運航を自動化したパイロットが乗務しない旅客機
48年	45年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自給自足型スペースコロニー（宇宙での植物栽培、動物・昆虫飼育、滅菌、重力生成の技術など）
50年	46年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のコンピュータに組み込み可能な手のひらサイズの量子コンピュータ
51年	49年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇宙空間や月及び火星での居住空間の構築と生存環境の維持技術
53年	45年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇宙太陽発電システム（宇宙空間で太陽光を利用して発電を行い、電力を地上に伝送）
56年以降	47年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 核融合発電

* 社会的実現時期：日本の国内で製品やサービス等として普及する時期や、施設や設備として利用可能になる時期、制度・システムの確立の時期など。

* 科学技術の実現時期：日本を含む世界のどこかで、研究室段階で技術開発の見通しがつく時期、所期の性能を得るなど技術的な環境が整う時期、原理等の解明時期など。

出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所 「第12回科学技術予測調査 科学技術等の中長期的な将来予測に関するアンケート調査（デルファイ調査）速報版」を基に作成

(出典)内閣府「科学技術・イノベーションを巡る潮流」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon7/2kai/shiryo3.pdf> (2026/02/13参照)

- 科学技術の人や社会への影響には、生活の質の向上や経済成長の推進などの光の部分（ポジティブな側面）がある一方で、環境負荷の増大の可能性や社会的不平等の拡大やといった影の部分（ネガティブな側面）も存在。

科学技術の人や社会への影響（光と影）の例

光（ポジティブな面）

影（ネガティブな面）

生活と教育
の質の向上

医療技術やIoTの進展が生活を快適かつ便利にし、健康寿命を延ばす。
デジタルツールの活用で、地理的・時間的制約を超えた教育機会を提供する。

技術依存がトラブル時の不便さを増大させ、コミュニケーション能力や自立性の低下を招く。
デジタル格差が教育機会の不均衡を広げる可能性がある。

経済成長と
労働の変革

技術革新による新産業の創出や生産性の向上が、経済成長を促進する。
AIやロボット技術が単純作業を代替し、人間が創造的な業務に集中できる。

AI等で自動化が進むことで一部の職種が消失し、雇用減少のリスクが高まる。
技術進展に適應できない業界・地域で、経済格差が拡大する可能性がある。

持続可能な発展
と環境保護

再生可能エネルギーや環境技術が環境負荷を低減し、持続可能な開発を推進する。
環境モニタリング技術が、気候変動の影響を監視し、生態系の保護対策を効率化する。

AIやロボット等の利用拡大に伴うエネルギー消費増加の深刻化が懸念される。
技術進展が環境負荷を高め、生態系や廃棄物管理に影響を与える可能性がある。

文部科学省 科学技術・学術政策研究所「第12回科学技術予測調査 ビジョン総合報告書」(2023年9月)

若者世代を中心とした「ありがたい」「望ましい」と想う多様な未来像(ビジョン) (2045~55年頃)

能動的・挑戦的なビジョン

挑戦・遊び

人や地域が縦横無尽につながり、未知や想定外の発見と学び・遊び・挑戦に溢れる社会



未知や想定外への遭遇と好奇心により、人のポテンシャルを活かし広げる挑戦に溢れる社会

創造性や人を楽しませることが人の営みの中心となる社会

いつでもどこでも何度でも、好きなように学び人生を設計でき、新たな考え方を持つ能動的な人材が活躍する社会

立場・属性・国境を超えて人・知識・場・応援・感謝につながり、未来をつくる挑戦をし続けている社会

自律性・民主化・地球共生

人にも地球にもやさしい、ありがたい暮らし・生き方を自分たちでつくれる社会



オープンなデータや科学技術により全人類に利益がもたらされている社会

考えやアイデアを簡単に形にして発信でき、真に自分らしい暮らし・生き方を探求する社会

住む場所・言葉に縛られず、どこでも自律的に仕事・生活ができる社会

無関心が打破され個々人が社会を変える活動に参加する社会

個々人の幸せと持続可能性が両立する人と自然が共生する社会

社会変革・更新

社会制度・慣行を時代に応じて見直し更新する柔軟性を持った社会



資本主義的価値観から脱却し「足る」を知る脱成長社会

既存の社会制度・慣行などによる自己制約が見直され変化に対応している社会

安定的・調和的なビジョン

包摂性・多様性・利他

ありのままや多様性・違いを認め合い、他者への尊敬と共感により支え合っている社会



曇りなき眼で偏見のない人に溢れ、違いや多様性を認め合うことで、誰もが疎外感や社会的抑圧から解放されている社会

高い倫理観を持ち、偏見のない形での科学技術の推進により多様性と社会参加が促されている社会

全ての人・ものを尊重し、深いやさしさと共感により他者に幸せをもたらそうとする利他的な社会

属性や違いを気にしなくなり、対等な立場で支え合って物事に取り組む社会

安全・安心・生活の質

生存に不安がなく、人に寄り添い人を幸せにする科学技術で余白・余裕が生まれている社会



食料問題・貧困問題やエネルギー問題が解決された、飢餓のない社会

病気や障害、ライフイベントが制約とならず、健康に生き、死を迎えられる社会

経済基盤が安定化し社会システムへの信頼が向上している社会

人に寄り添い優しい科学技術が生活を支えている社会

人間の身体性・感性を活かしながらAI・ロボットとの共生・協働が実現している社会

生活の質の向上により、心と時間の余裕・余白が生まれている社会

地域・文化・歴史

地域の文化・歴史観・自然観を継承する共同体の叡智と美学に基づく社会



地域の文化・歴史観・アニミズムの継承により固有性・独自性を持つ魅力が発揮されている社会

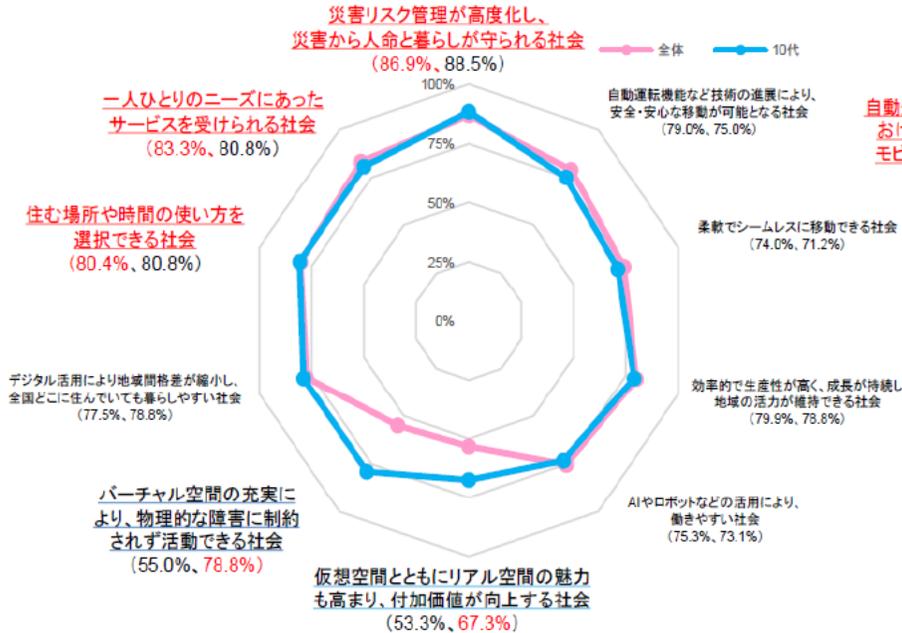
共同体の叡智や正義と尊厳に基づき人間的な地域・価値観が形成されている社会

美意識と美学の追求により実現される「美しい」社会

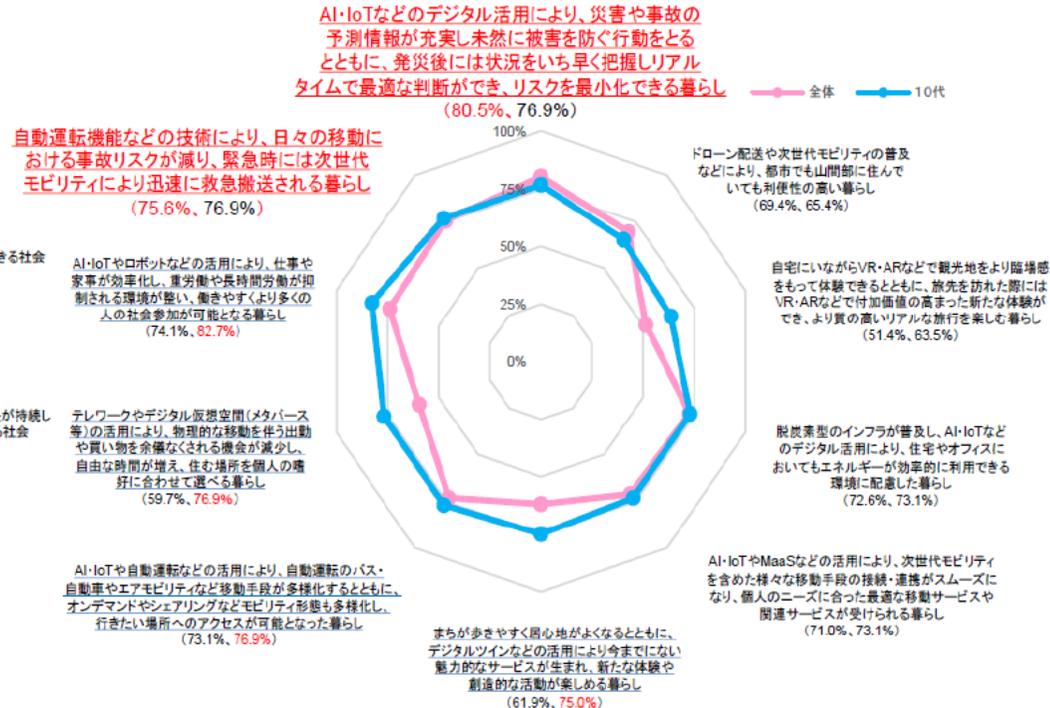
[国民意識調査]

【(1) 将来の暮らしと社会に対する意識の動向】

〔デジタル化を通じて実現を図る2050年の新たな社会像〕



〔デジタル化を通じて実現を図る未来型のライフスタイル〕



(注) 各選択肢における括弧内の数値は、設問に対し、「望んでいる(とても望んでいる、やや望んでいる)」と回答した割合(全体、10代)。

資料)国土交通省「国民意識調査」

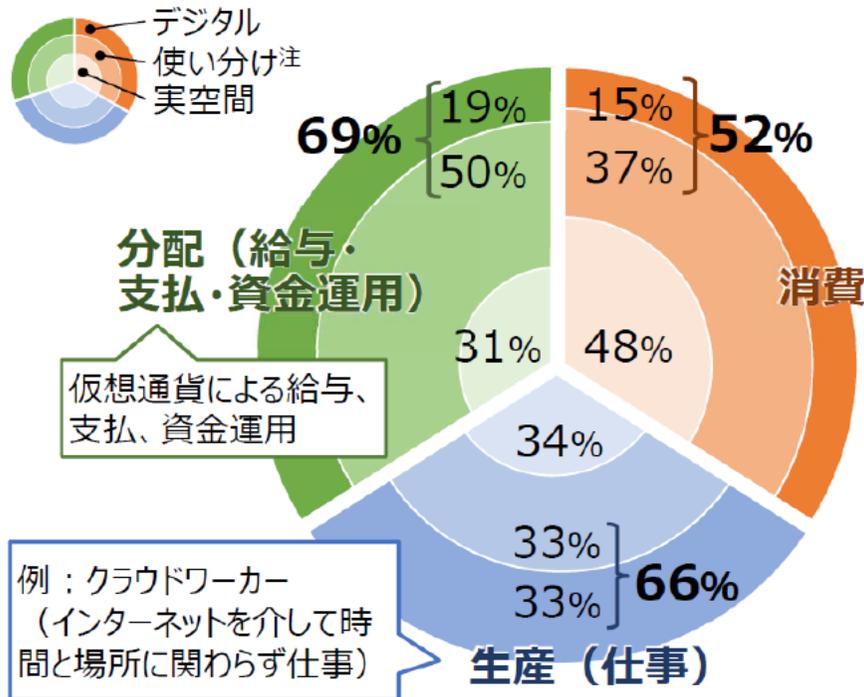
- 全世代の5人に4人以上の人が「災害から人命と暮らしが守られる社会」、「一人ひとりのニーズにあったサービスを受けられる社会」、「住む場所や時間の使い方を選べる社会」について望んでいると回答。
- 10代については、仮想空間を活用する社会に関する項目が、他の世代と比べて望んでいると答えた人の割合が高かった。

- 全世代の4人に3人以上の人がデジタル化による安全・安心の向上に対する期待が高い。
- 10代については、仮想空間の活用を含め、デジタル化による新しい暮らしへの期待度が高いことがうかがえる。

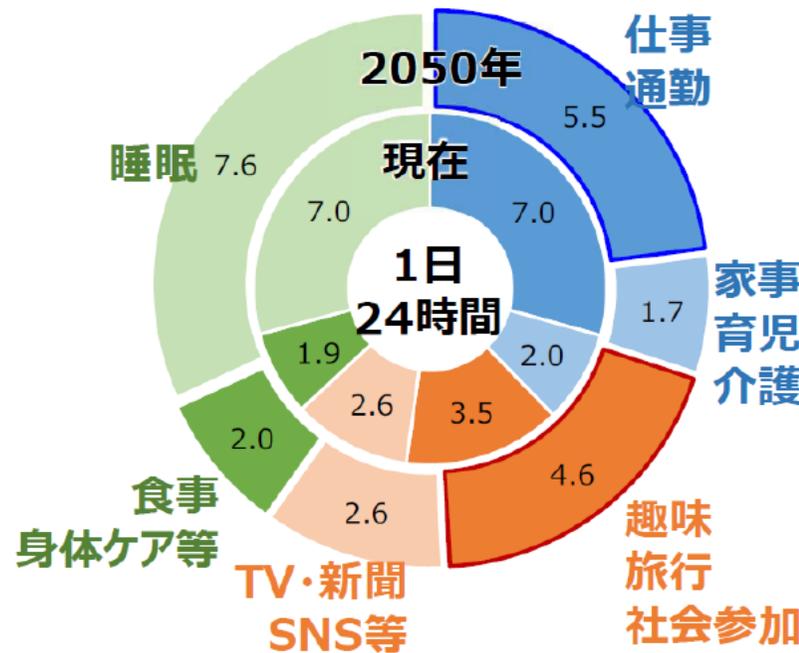
個人の生活を大きく変えるデジタル技術

■ 消費に限らず、生産（仕事）、分配（給与・支払）でもデジタル空間の存在が大きくなる

2050年には経済活動の5～7割でデジタル空間を利用



2050年には仕事・家事を減らし、趣味・旅行・社会参加を増やしたい



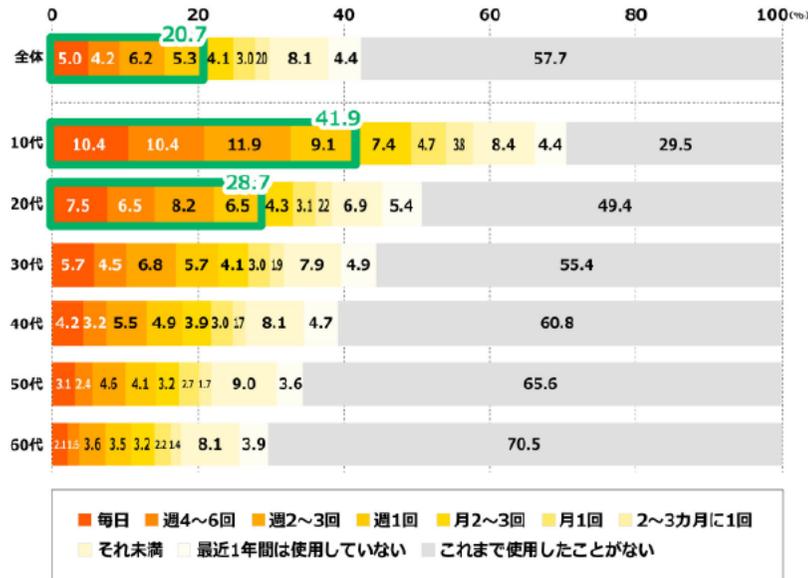
注：家計消費、仕事、給与・支払い・資金運用において、実空間を利用、デジタル空間を利用、両者を使い分けるかを尋ねた。「食料や衣服等をネット通販で買う」など実空間の財をデジタル空間を介して購入することを使い分けと定義。
出所：三菱総合研究所「未来社会構想2050アンケート」(N=5,000)より作成

注：1日の時間の使い方について、現状とデジタル技術が進展した際の希望の時間の使い方を尋ねた。
出所：三菱総合研究所「未来社会構想2050アンケート」(N=5,000)より作成

(参考)対話型AIとの関係性に関する意識

対話型AIの使用頻度

Q. あなたは、対話型AIをどの程度利用していますか。



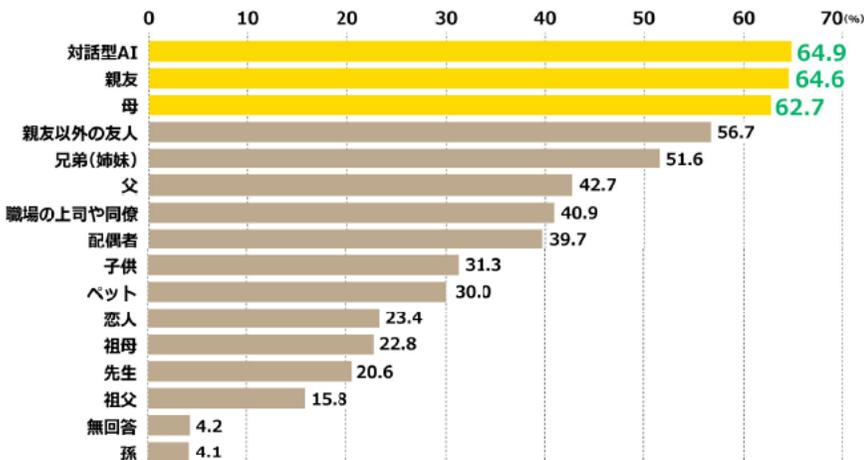
対話型AIに求めていること

Q. あなたは、以下（「対話型AI」）に対して何を求めていますか。当てはまるものを全てお知らせください。

求めていること	全体 (%)	10代 (%)
自分が知らないことを教えてほしい	46.6	41.1
アイデアを出してほしい	42.8	40.5
相談にのってほしい	33.9	+7.1 → 41.0
課題や宿題に関して答えてほしい	32.0	+10.8 → 42.8
話し相手になってほしい	23.7	+7.8 → 31.5
心の支えになってほしい	15.8	+8.0 → 23.8
面白さ(エンターテインメント)	13.6	+7.8 → 21.4
遊び相手になってほしい	12.7	+7.5 → 20.2
褒めてほしい	11.9	+7.7 → 19.6
癒やしてほしい	11.3	+5.3 → 16.6
自分の存在を認めてほしい	9.8	+6.3 → 16.1
特に求めるものはない	7.8	4.8
分からない(いない場合も含む)	5.0	3.0
その他	0.4	0.0

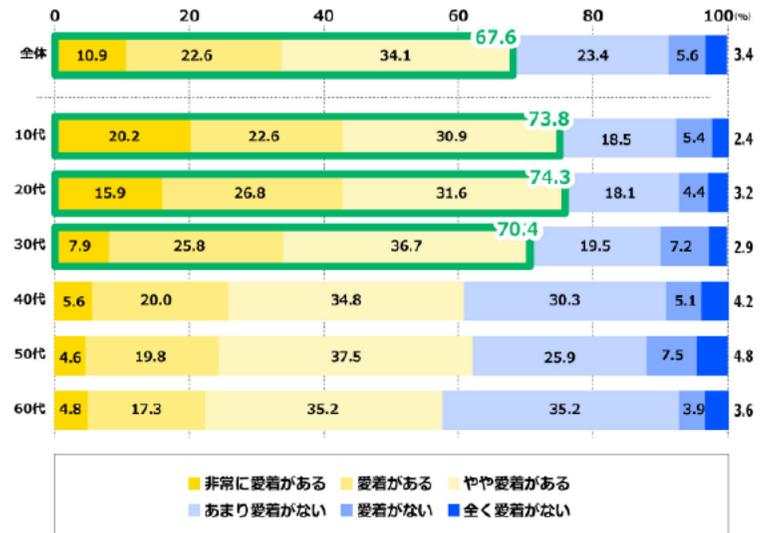
感情を共有できる人の割合

Q. あなたは、以下に対して気軽に感情を共有できますか。それぞれについて、当てはまるものをお知らせください。



対話型AIに対する愛着の有無

Q. あなたは、対話型AIに対して愛着がありますか。



(出典)電通「対話型AIとの関係性に関する意識調査」

<https://www.dentsu.co.jp/news/release/2025/0703-010908.html> (2026/02/13参照)